





# 唯見る荒々 曠野の如し

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 漢江徐々に減水す

再降の水害に備えられた  
洪水に浸る荒々

## 不安の恐怖

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 府内の被害状況

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大門方面

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

# 家庭倒壊 死者多数

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 昌徳宮内

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 三月を押し出す

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 電車開通

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 朝鮮の被害状況

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

# 期待に反 期せず

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 壯快無比の懸賞飛行

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 黄海荒る

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 保護師に婦人を採用

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 猫

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

# 京城世界 所感の三

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大出水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 警報

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

# 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

## 大洪水

洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々  
洪水に浸る荒々

### 安松曲馬團一行

毎日午後七時開演  
最新奇なる技術加へて御清覧に供ふべし  
間もなく御来場願ふ  
堂等 五拾銭 或等 參拾銭 或等 貳拾銭

### 田中丸病院

(大塚院) 院長 田中丸  
内科 外科 小児科 婦人科  
電話 八八八

### 眞繼商店

萬年筆修理  
精巧なる器機と具備とA製造  
熱心なる職工の  
本町四丁目

### コレラ豫防に

コレラ菌の予防に  
コレラ菌の予防に  
コレラ菌の予防に

### 社告

京都市内に於ける本  
支社内に於ける本  
支社内に於ける本

### 金

金  
金  
金



旭亭樓山口演

[illegible][illegible]

演藝案内

[illegible]

金剛太郎（金五郎）  
 主君の勤風を慕ふんと孝子僕女が  
 遠く狐の報に因て首尾一夫の情立  
 實たに應酬したる見ること大層  
 分はれたる大層の大作  
 寫眞尺に付夜間七時より開演  
 仕儀

[illegible]

平野仙太郎大出武萬木春一  
合詞  
現代歌謡「春風の曲」全五先  
編にて南島菜葉集に載ふ美少年  
として佳句の麗人を思ひて美人  
たるは誰一人の心知れず天女大  
の森中工務一人のみに生る奇樹  
然るに原云と努力の快報希明の  
目録察せ一日十一日見代開書  
奇々怪々なる速報映演

田上浩助吉岡式針川朝鮮代理  
日本活動寫真株式會社

大正八年三月三十日より引續き大櫻  
實録中米旅行第三  
第二屆の通訳尺  
同「元々」より其尺  
●問題の様式 第三節目

人間タラシク

全三十一巻の内第五、六編四  
學者の片 狂歌家  
世界の人心を魅惑し驚かすめしむ  
の手鑑ハバリのウダニ氏氏顔ロ  
大に初し眞人人間タラシク  
大體大活劇 其景大佳境  
なり

日：曾村卓郎著苦心の新作  
雑誌の附刊

上泉伊勢守全七

一瓦屋助千葉


**朝鮮郵船**  
 外十號名

[illegible]

朝鮮郵船會社

仁川	釜山	大邱	蔚山	光州	大田	海州	元山	南浦	清津	咸興	南浦	元山	海州	大田	光州	蔚山	釜山	仁川
七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	七月三日	
八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	八月五日	

電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話 電話

必窓内には閑坐に要する薪炭の受  
 け附けには、就緒時以外には合  
 同の御力を頼み、常々御來賓有  
 り候  
 會則大用の御方は郵送二條制と  
 御申相成度候  
 京・鶴山・江ノ通・十五番地中  
 八個行  
 京城刺繡講習所

**尺八無進呈**

○本會の新式速成自在獨習録によれば、ドナ・安  
金（スダ）上達するに類合此際には初級  
へ進め得るの免許状を與へ先づ五百  
一兩、金七拾銭に及ぶ新式尺八  
に於ける指はハガキにて至急申込  
ば代共引替給ひ置て、又○前金  
は近代共九十五錢にて、同廿銭  
東京研究會  
秘伝城三三八七

小守入用 十四五歳の女にして者には給日開き内熟を中込へし給所而の

最新 滿洲地誌 上下

らざるも多くは數年前の刊行に係るものにして年々非常の速度を以て發展して、ある新しき滿洲を記したる出版物は近來闊すど出でず且つ滿洲に關する出版物は多く産業方面に關するもの多く滿洲の自然界と人事界を網羅して其要を得たるもの殆ど絶無なり。於此本社は朝鮮及び滿蒙叢書の第四輯として本書を刊行して其の缺陷を補はんとし、宋書は本社社長尾崎旭邦自ら執筆編纂したるものにして筆端雄渾たるものにして滿洲を記述したるとは其の邊を樂にする。最近の滿洲を知り、滿洲の天然と人事とは廣く短く知んとせられよ。手にとせられよ。上下二巻

(七) 支那の海外(支那の海外)  
支那の海外(支那の海外)

最新  
朝半魚地誌  
上中下

第一輯二輯三輯として頗る鮮地誌上中三冊を發行す本誌は上編に於て朝鮮の自然地理と人文地理とを記述し朝鮮の自然地理を二冊に於て朝鮮の中嶺下嶺の事を網羅せり中嶺下嶺の二冊に於て八郡二千餘里十二面に渉り其邊界と地勢氣候風土其交通と人口産業物産の各衛生經濟を記述し本誌が特色をば朝鮮半島は一目瞭然たるを得べし本誌は本邦長祿庵元邦十餘年の朝鮮探紀と實地調査に基き執筆編輯したるものなり

船に於て一千員以上に出る以上最新記としては空前未聞の書一たび出づるべし

府及び滿鐵學校を初め朝鮮各道諸學校を其の甲府多き既に再版を要するに至りたる、此册申込み

凡圓にて頗つ全部出來

(一冊外二冊に於て九圓) (一冊外二冊に於て九圓)

現代蒙古之真相

[illegible]

東亞商工株式會社

製造數量ニ限リアリ  
可成此際御買高御座候願上候

電報掛也 二七九四一 一六九  
電話掛也 二五九四一 一三番

現  
代  
蒙  
古  
之  
眞  
相

蒙古通信社長眞繼義太郎著  
關大六郎譯  
定價 四圓二角半  
發行所 東京 丸の内區 丸の内 丸の内 丸の内

蒙古源流

弘く蒙古書を同胞に宣傳し他日の蒙古開發に資する  
 爲め蒙古書發行したる此の繪葉書を遠方の友より受取たる人  
 繪新書と題外の饒多の思はずにツコりて了る  
 第一集 蒙古の歴史 第二集 蒙古の地理 第三集 蒙古の物産  
 第四集 蒙古の風俗 第五集 蒙古の言語 第六集 蒙古の宗教  
 第七集 蒙古の政治 第八集 蒙古の経済 第九集 蒙古の文化  
 第十集 蒙古の藝術 第十一集 蒙古の科学 第十二集 蒙古の文学  
 第十三集 蒙古の音楽 第十四集 蒙古の舞蹈 第十五集 蒙古の戏剧  
 第十六集 蒙古の美術 第十七集 蒙古の建築 第十八集 蒙古の工芸  
 第十九集 蒙古の交通 第二十集 蒙古の教育 第二十一集 蒙古の法律  
 第二十二集 蒙古の医学 第二十三集 蒙古の宗教 第二十四集 蒙古の政治  
 第二十五集 蒙古の経済 第二十六集 蒙古の文化 第二十七集 蒙古の藝術  
 第二十八集 蒙古の科学 第二十九集 蒙古の文学 第三十集 蒙古の音楽  
 第三十一集 蒙古の舞蹈 第三十二集 蒙古の戏剧 第三十三集 蒙古の美術  
 第三十四集 蒙古の建築 第三十五集 蒙古の工芸 第三十六集 蒙古の交通  
 第三十七集 蒙古の教育 第三十八集 蒙古の法律 第三十九集 蒙古の医学  
 第四十集 蒙古の宗教 第四十一集 蒙古の政治 第四十二集 蒙古の経済  
 第四十三集 蒙古の文化 第四十四集 蒙古の藝術 第四十五集 蒙古の科学  
 第四十六集 蒙古の文学 第四十七集 蒙古の音楽 第四十八集 蒙古の舞蹈  
 第四十九集 蒙古の戏剧 第五十集 蒙古の美術 第五十一集 蒙古の建築  
 第五十二集 蒙古の工芸 第五十三集 蒙古の交通 第五十四集 蒙古の教育  
 第五十五集 蒙古の法律 第五十六集 蒙古の医学 第五十七集 蒙古の宗教  
 第五十八集 蒙古の政治 第五十九集 蒙古の経済 第六十集 蒙古の文化  
 第六十一集 蒙古の藝術 第六十二集 蒙古の科学 第六十三集 蒙古の文学  
 第六十四集 蒙古の音楽 第六十五集 蒙古の舞蹈 第六十六集 蒙古の戏剧  
 第六十七集 蒙古の美術 第六十八集 蒙古の建築 第六十九集 蒙古の工芸  
 第七十集 蒙古の交通 第七十一集 蒙古の教育 第七十二集 蒙古の法律  
 第七十三集 蒙古の医学 第七十四集 蒙古の宗教 第七十五集 蒙古の政治  
 第七十六集 蒙古の経済 第七十七集 蒙古の文化 第七十八集 蒙古の藝術  
 第七十九集 蒙古の科学 第八十集 蒙古の文学 第八十一集 蒙古の音楽  
 第八十二集 蒙古の舞蹈 第八十三集 蒙古の戏剧 第八十四集 蒙古の美術  
 第八十五集 蒙古の建築 第八十六集 蒙古の工芸 第八十七集 蒙古の交通  
 第八十八集 蒙古の教育 第八十九集 蒙古の法律 第九十集 蒙古の医学  
 第九十一集 蒙古の宗教 第九十二集 蒙古の政治 第九十三集 蒙古の経済  
 第九十四集 蒙古の文化 第九十五集 蒙古の藝術 第九十六集 蒙古の科学  
 第九十七集 蒙古の文学 第九十八集 蒙古の音楽 第九十九集 蒙古の舞蹈  
 第一百集 蒙古の戏剧 第一百零一集 蒙古の美術 第一百零二集 蒙古の建築  
 第一百零三集 蒙古の工芸 第一百零四集 蒙古の交通 第一百零五集 蒙古の教育  
 第一百零六集 蒙古の法律 第一百零七集 蒙古の医学 第一百零八集 蒙古の宗教  
 第一百零九集 蒙古の政治 第一百一十集 蒙古の経済 第一百一十一集 蒙古の文化  
 第一百一十二集 蒙古の藝術 第一百一十三集 蒙古の科学 第一百一十四集 蒙古の文学  
 第一百一十五集 蒙古の音楽 第一百一十六集 蒙古の舞蹈 第一百一十七集 蒙古の戏剧  
 第一百一十八集 蒙古の美術 第一百一十九集 蒙古の建築 第一百二十集 蒙古の工芸  
 第一百二十一集 蒙古の交通 第一百二十二集 蒙古の教育 第一百二十三集 蒙古の法律  
 第一百二十四集 蒙古の医学 第一百二十五集 蒙古の宗教 第一百二十六集 蒙古の政治  
 第一百二十七集 蒙古の経済 第一百二十八集 蒙古の文化 第一百二十九集 蒙古の藝術  
 第一百三十集 蒙古の科学 第一百三十一集 蒙古の文学 第一百三十二集 蒙古の音楽  
 第一百三十三集 蒙古の舞蹈 第一百三十四集 蒙古の戏剧 第一百三十五集 蒙古の美術  
 第一百三十六集 蒙古の建築 第一百三十七集 蒙古の工芸 第一百三十八集 蒙古の交通  
 第一百三十九集 蒙古の教育 第一百四十集 蒙古の法律 第一百四十一集 蒙古の医学  
 第一百四十二集 蒙古の宗教 第一百四十三集 蒙古の政治 第一百四十四集 蒙古の経済  
 第一百四十五集 蒙古の文化 第一百四十六集 蒙古の藝術 第一百四十七集 蒙古の科学  
 第一百四十八集 蒙古の文学 第一百四十九集 蒙古の音楽 第一百五十集 蒙古の舞蹈  
 第一百五十一集 蒙古の戏剧 第一百五十二集 蒙古の美術 第一百五十三集 蒙古の建築  
 第一百五十四集 蒙古の工芸 第一百五十五集 蒙古の交通 第一百五十六集 蒙古の教育  
 第一百五十七集 蒙古の法律 第一百五十八集 蒙古の医学 第一百五十九集 蒙古の宗教  
 第一百六十集 蒙古の政治 第一百六十一集 蒙古の経済 第一百六十二集 蒙古の文化  
 第一百六十三集 蒙古の藝術 第一百六十四集 蒙古の科学 第一百六十五集 蒙古の文学  
 第一百六十六集 蒙古の音楽 第一百六十七集 蒙古の舞蹈 第一百六十八集 蒙古の戏剧  
 第一百六十九集 蒙古の美術 第一百七十集 蒙古の建築 第一百七十一集 蒙古の工芸  
 第一百七十二集 蒙古の交通 第一百七十三集 蒙古の教育 第一百七十四集 蒙古の法律  
 第一百七十五集 蒙古の医学 第一百七十六集 蒙古の宗教 第一百七十七集 蒙古の政治  
 第一百七十八集 蒙古の経済 第一百七十九集 蒙古の文化 第一百八十集 蒙古の藝術  
 第一百八十一集 蒙古の科学 第一百八十二集 蒙古の文学 第一百八十三集 蒙古の音楽  
 第一百八十四集 蒙古の舞蹈 第一百八十五集 蒙古の戏剧 第一百八十六集 蒙古の美術  
 第一百八十七集 蒙古の建築 第一百八十八集 蒙古の工芸 第一百八十九集 蒙古の交通  
 第一百九十集 蒙古の教育 第一百九十一集 蒙古の法律 第一百九十二集 蒙古の医学  
 第一百九十三集 蒙古の宗教 第一百九十四集 蒙古の政治 第一百九十五集 蒙古の経済  
 第一百九十六集 蒙古の文化 第一百九十七集 蒙古の藝術 第一百九十八集 蒙古の科学  
 第一百九十九集 蒙古の文学 第二百集 蒙古の音楽

真繼雲山著

三六版権入組張業本ボケツト型三百十四頁  
本文ボイント括字總ルビ附定價八拾五錢送料六錢

**思ひ** (内容目次)  
てゐるを思ふ………  
**日記帳**  
スゲツチ五篇  
獨り言  
戀の哲學  
著者：松岡正剛　人生：自叙傳　情元

無弦琴  
或る新入りの女に戀せし私  
十年の別離なり。それは、彼人に入つて所なり。夫となつた。十年後の私には妻子が、  
年の増へたる可なり。其の妻は、思ひに於けるもの位、其の間の操に物おて行く。其の  
女に振られたるの記  
越後、湯沢の地、佐々木山田の、體の科、學へ、八重流流式、二夜になつて、藝者から、振られたる、  
はかりなり。等しき、等は、則ち、召り、振られたるを、目撃せられたる、役にも、先にも、ある、  
なり。なり。  
私の知つてゐる夫人の事  
愛し夫人。理解ある。有つた夫人。夫人の愛に、生きてゐる夫人。愛想と、  
人、夫人に、不足せられてゐる夫人に、至る夫人の、知つてゐる夫人に、影で、解明、解したる  
或る若き夫人の死

十年振りの旅  
 運命に引連れ  
 新須磨の浦  
 蒙古再遊記  
 洗心遊記

著者が筆を執つた初山から金州、本溪へと、年報りに諸國を遊した紀述と其内閣  
 界が、香山老翁はたはつてもトホキトトと京娘へ逢はれた前後の情調、併しそこに  
 是が、大なるはたはつても苦みへと幸福と光明とを興へて來れる  
 つてゐるさるる愛の風景（へ行）遊畢傳りの遊暇もそれから、英人お冬の應答、但しお冬は

今も著して大に光榮する一日から、中興の遊へ、遊んだ時の記述、本誌に心の底から樂し  
 びを感しては此の一日から、中興の遊へ、遊んだ時の記述、本誌に心の底から樂し

**雪の雫太探險**

八ヶ岳を攀るゝは、一歳前の雫太を探検した壯烈な探険記。本誌の大衆を知るの生面を見なければ駄目である。

**特種部隊を助けて**

太平洋戦争の特種部隊を知り、讀者は何を感じたかを語るす。

**暴徒討伐の顛末**

暴徒が離れた十坪湖の湖畔を描いて、新故に及んで今日の朝鮮は平和なしと現代に刻印されて生れたのであるといふところも面白くある。

**四將軍の御凌墓か**

千代子とて思ひ出さういふ千年前に離せた身置と地獄記。

THE UNIVERSITY OF CHICAGO



